

訓子府町こども園着工

イメージ図 (外観)



平成28年4月にオープン

現在の訓子府幼稚園とくんねつぶ保育園の老朽・狭あい化を解消し、施設・運営面を一体化した施設「訓子府町こども園」が今年4月に着工しました。平成28年4月の開設をめざしています。施設は、姉妹町・津野町のヒノキ材などを使用しているほか、省エネルギーにも配慮。0歳から5歳児が、一貫した教育・保育を受けることができる運営をしていく方針です。



幼稚園・保育園を一体化した総合施設

幼稚園は、4歳から就学前までの幼児に対する学校教育、保育園は、0歳から就学前の、就労などにより保育を必要とする家庭の子どもを受け入れるといった目的の違いや運営基準などの違いがあります。

それに対して子ども園は、幼稚園と保育園のそれぞれの良いところを生かしながら、その両方の役割を果たす新たな施設で、就学前の教育・保育を一体として捉えた総合施設で、すべての子どもが安全・安心に過ごせる施設をめざし、小・中・高校一貫した連携強化を図る方針です。

省エネ・省資源、ヒノキ材使用の施設

施設は、木造平屋建てで延べ床面積は約1900㎡。現訓子府幼稚園とくんねつぶ保育園を合わせた面積より約440㎡広くなります。現在、両園の間の幼保グラウンドで建設工事が盛んに行われています。

内部には、「はだし保育」を実践するため、子どもたちの足に良いヒノキ材を使用。地中熱(ヒートポンプ)・太陽光(ソーラー)などの自然エネルギーを利用した省資源・省エネルギーの施設となります。

「未来にきらめく子どもたち」に生きる力を

施設の全体イメージは、2ページのイメージ図をご覧ください。施設のコンセプトは「未来にきらめく子どもたちに生きる力」です。

幼稚園・保育園二つの機能に加え、隣接の子育て支援センターとの一層の連携を図り、内部は①乳幼児保育室ゾーン②幼児保育室ゾーン③交流ゾーン④食育ゾーンの4ゾーンで構成されます。

特に交流ゾーンは、368㎡の広い遊戯室のほか、広い回廊や中庭、グラウンドなどを整備し、全年齢が交流を深める場とする考えです。

楽しく過ごせるこども園に

基本計画では、次の6本の柱を掲げ、「こども園にかかわるすべての人(園児・保護者・地域の方々・職員)が楽しく過ごせる園にすることをめざしています。

- ①地域性を生かした活動
 - 訓子府町の特性を生かし、たくさんの自然との触れ合いを楽しむ活動を行います
- ②異年齢活動の充実
 - 0～5歳児が同じ施設で生活することを生かし、異年齢のかかわりを大切にします
- ③食育活動の充実
 - 子どもたちが豊かな食の体験を積み重ね、「食」への関心をはぐくみます
 - 子どもたちが菜園で収穫した野菜を給食で使用するなど、食育の取り組みを実践します
 - 給食には地域食材を取り入れます
- ④地域との触れ合い活動の充実
 - 小学校・中学校・高校との連携を強化し、町内保育・教育機関の一貫した教育をめざします
 - 身近な大人や地域の方たちとの触れ合いを大切にします
 - 子どもだけではなく、保護者の方たち、地域の方たちにとっても利用しやすい園をめざします
- ⑤子育て支援センターとの連携
 - 同じ敷地にあることを十分に生かして相談体制の充実に努めます
- ⑥職員の資質向上
 - 職員の研修などにも力を入れ、質の高い保育・教育が行われる園をめざします

イメージ図 (内部)

